

議 事 録

会議名	川西市総合教育会議(第1回)		
事務局(担当課)	経営改革課		
開催日時	平成29年10月19日(木) 16時00分から17時00分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	川西市 大塩市長 川西市教育委員会 牛尾教育長、加藤委員、磯部委員、服部委員、鈴木委員	
	関係職員	松木総合政策部長、中塚こども未来部長、木下教育推進部長	
	事務局	総合政策部行政経営室経営改革課 作田室長、的場課長、有村	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議事 (1)平成30年度教育施策の課題について 3 その他		
会議結果			

会議経過

発言者	発言内容等
事務局	<p>それではただ今より、第1回川西市総合教育会議を開催させていただきます。会議開催に当たりまして、総合教育会議の主宰者であります大塩市長からごあいさつをさせていただきます。</p>
大塩市長	<p>本日は、平成29年度第1回目の川西市総合教育会議にご出席をいただきありがとうございます。</p> <p>前は、「平成28年度教育施策の成果」及び「平成29年度教育施策」について委員のみなさまと意見を交換する機会とさせていただき、大変有意義な議論ができたと感じております。</p> <p>さて、今回は、議題にもございますように、「平成30年度教育施策の課題」について、委員の皆様と意見交換をさせていただければと存じます。</p> <p>教育政策について、この短い時間で全ての想いについて、議論を尽くすことは難しいとは存じますが、教育長をはじめ、教育委員のみなさまとしっかりと意見交換を行い、私の教育に対する考えもしっかりと述べさせていただき、これまで以上に連携を強化し、一致して教育に関する諸課題に対応してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いを申しあげます。</p> <p>以上簡単ではありますが、開会に当たってのごあいさつとさせていただきます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。これよりの会議の進行につきましては、大塩市長にお願いしたいと思います。市長、よろしく願いいたします。</p>
大塩市長	<p>それでは、この後は、私の方で議事進行をさせていただきます。</p> <p>まず、「平成30年度教育施策の課題について」を議題といたします。</p> <p>折角の機会ですので、委員の皆様から、平成30年度の教育施策の課題について、ご意見等をいただければと存じますが、いかがでしょうか。</p>
牛尾教育長	<p>平成29年度の主な取り組み・事業から平成30年度、教育施策の課題について協議・調整等をさせていただきます。私及び、各教育委員から順番にご説明をさせていただきます。よろしく願いします。</p> <p>(スクリーンの映像に沿って説明)</p> <p>これは昭和31年、1956年の川西市、中央北地区一帯の写真です。実は1本白いラインがある左側、ここが川西市役所であります。このあたりがキセラ川西の公園の場所です。</p> <p>今回大塩市長が中心にキセラ川西に取り組みまれたことを少し紹介させていただきます。手を置いたところが、市長を先頭に川西市を挙げてご尽力をいただき、平成29年7月8日にオープンしたキセラ川西せせらぎ公園遊歩道であります。</p> <p>まさにこれは人・暮らし・自然の調和のとれた市民の憩い・生涯学習の場・子どもたちの校外学習・園外保育・環境体験学習等の場、防災に係る拠点として大いに今後、活かされることと思います。</p> <p>すでにいろんな昆虫や植物も生息しているところです。</p>

発言者	発言内容等
	<p>現在のオープン当時のキセラ川西公園を紹介させていただきました。 それでは、これを基に課題について私共からお話させていただきます。</p> <p>文部科学省が次期学習指導要領の改訂の方向性を出しました。平成30年度以降、川西の教育の大きな方向性と課題は文部科学省の次期学習指導要領の改訂をふまえての事業推進と大きく重なってまいります。幼稚園は平成30年度から、小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から全面实施となります。</p> <p>今回の学習指導要領改訂の方向性は社会に開かれた教育課程の実現です。よりよい学校教育を通して、よりよい社会を作るという目標を共有し、社会と連携協働しながら子どもたちが未来の作り手となるために、必要な資質・能力を育むことが求められています。必要な資質・能力として何ができるようにするかです。</p> <p>1つは、学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力。人間性等の寛容です。2つ目に生きて働く知識・技能の習得、3つ目に未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を挙げています。</p> <p>そのために何を学ぶかです。まさに教育内容そのものです。</p> <p>主な改善点は、1つ目に小学校から学ぶキャリア教育の充実、学ぶ意義、子どもたちの将来の目標、目的を見出すこと。2つ目にプログラミング教育を含む情報活用能力の育成であります。3つ目に心の教育、道徳教育の充実。4つ目に外国語教育の拡充等が挙げられています。その他もたくさんございます。そして、子どもたちがどんな授業を受けてどのように学ぶかです。指導者からの立場から言いますと主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの視点から学習の過程の改善です。</p> <p>国の教育に係る方向性は本市の教育理念、めざす人間像、5つの基本方針に合致するもので、川西の教育と各事業、施政方針等の改善、充実をもって推進してまいります。</p> <p>平成29年2月に教育委員会で作成しました多田グリーンハイツと清和台の2地区における「学校配置の適正化に関する手順」については、平成28年6月の統合方針再検討の決定以降、それまでの様々なご意見を反映し、策定に至りました。</p> <p>この手順は、大きく3つのポイントを示しています。</p> <p>1つ目は、今後協議を進めていく中で、児童数の実態に応じて検討を進めていくことです。2つ目に両地区のいずれかの学校で複数の学年に1クラスの実態が現れた場合に協議・検討をスタートさせるということです。3つ目に今後検討を進めていくにあたっては、地域と保護者の皆様と丁寧な議論を行うことです。これを踏まえて進めてまいります。</p> <p>平成29年4月以降、5月に開催した地域説明会では、白紙撤回を求める反対意見を含め、多くの意見等をいただきました。その後、教育委員会では、意見を出しやすい、話しやすい環境に配慮した小規模単位の意見交換会を継続的に実施し、ご意見を伺っているところです。</p> <p>今年度に入って、説明会・意見交換会は、既に18回を数え、約350人近くの方々と25時間を超える意見交換等の時間をもちました。本年11月末を目途に、保護者・就学前の保護者など、直接的な学校への関係者を中心に可能な限りご意見を伺ってまいります。</p> <p>次に中学校給食についてです。</p> <p>今年度の予算では委託料550万円を計上し中学校給食のセンター方式実現可能性調査を現在、進めています。</p> <p>用地確保のため、地元との調整を進めているため、今年度の前期では用地が確</p>

発言者	発言内容等
	<p>保され次第、調査に着手しようと考えていました。しかしながら、用地確保に至るまでの詳細要件の整備には、まだ時間を要すると判断し、現在候補地として考えています。久代3丁目の土地を想定したうえで調査委託を進めようと考えています。</p> <p>このため、先月9月末に当該用地を管理されている生産組合長や水利組合の関係者にご説明をしました。それに対して調査を実施することに関してはご理解をいただくことができました。</p> <p>現在、業務委託の仕様書作成等の事務処理に努めています。</p> <p>センター方式実現可能性調査には可能な限り早期に着手したうえで、平成30年3月には調査結果を見て、その後の具体的な行程を決定してまいりたいと考えています。</p> <p>次に「赤ちゃん先生プロジェクト」についてです。</p> <p>近年、核家族化や少子化が進み、自己肯定感を高めるとともに他者を思う心を育むという学習の重要性が高まっています。</p> <p>本市教育委員会においても、命と人権を尊重し、思いやりと規範意識を持った人をめざす人間像の柱の1つとし、豊かな心の育みに取り組んでいます。</p> <p>赤ちゃん先生プロジェクトの取り組みは、平成25年度より徐々に実施する学校が増え、平成29年度は、全小中学校にて実施を計画しています。</p> <p>この事業は、実際に乳幼児と触れ合い、母親の体験談などを聞くことで、家族や周りの人々の思い、自分の価値などに気づき、自分を大切にするとともに、思いやりや他者を自分と同じように尊重できる心を培うなど、命の大切さを実感させるプロジェクトです。</p> <p>小学校では、主に生活科の中の「大きくなった自分のことを振り返ろう」などの単元で、中学校では、家庭科の中の「保育の学習」の単元で実施しています。</p> <p>子どもたちの感想の中には、「今回初めて赤ちゃんを抱っこして、思った以上に重たくて、命の重みや大切さを学ぶことができました。」という声など、肯定的な感想が数多くありました。今年度は既に3校が取り組みを終えています。2学期後半から3学期にかけて、順次実施をしてまいります。</p> <p>市長のご提案のもと、教育委員会事業として始めたこの取り組みは、児童・生徒の心の教育、学力向上、安全安心で落ち着いた学校づくりの大きな助けとなっています。現在、少しずつそのような方向に進めています。</p> <p>次に就学前の教育・保育についてです。</p> <p>川西市子ども子育て計画に基づき、就学前教育・保育の進行、および子育て支援策の充実に取り組んでまいりました。この計画においては、平成29年度に待機児童の解消を図ることを目標の1つに挙げてきましたが、予測を上回る、保育需要の増加がみられました。平成29年4月時点では39名の待機児童が生じることとなり、現在その解消に向け、計画の見直し作業を進めています。</p> <p>待機児童の解消に向けた取り組みとしましては、本年4月に「向陽台あすのこども園」を開設いたしました。この園は117名の定員の幼保連携型認定こども園で、3歳未満児では、ほぼ定員を充足し、62名の児童が通園しています。これまで保育にかかわる施設が設置されていなかった、緑台中学校区にこども園を整備することができました。今後とも地域の皆様に愛され、地域の子育て支援の核となる施設として教育委員会としても支援してまいります。</p> <p>また、待機児童が集中する3歳未満児の保育を行う小規模保育事業につきましては、社会福祉法人友朋会が来年4月の開設に向け、定員19名の施設を久代4丁目</p>

発言者	発言内容等
加藤委員	<p>に整備する予定としています。</p> <p>市立幼稚園・保育所の一体化に関しましては、「牧の台みどりこども園」の来年4月の開設に向け、整備・工事を進めています。</p> <p>平成31年度には、加茂幼稚園と加茂保育所が一体化した施設を旧加茂小学校跡地に開設する予定です。この施設におきましても10月から整備工事に着手します。</p> <p>さらに川西幼稚園と川西保育所が一体化した施設につきましては平成32年度の開設にむけ、本年度は基本設計・実施設計に取り組んでまいります。</p> <p>これらの取り組みにより、就学前の子どもたちが健やかに育ち、成長していくことができる環境を提供していきたいと考えています。</p> <p>次に、社会教育関係で加茂遺跡の保存と活用、及び郷土館等の整備、修繕等の進捗状況についてご説明します。</p> <p>加茂遺跡の保存と活用を推進するための国指定史跡地内の川西市土地開発公社及び民有地の土地購入についてですが、対象地は加茂神社の東側で、神社に沿って南北に通る市道に隣接する桃畑等を含む民有地で、3筆。そして、加茂大地の東斜面にあたる公社有地が中心となる12筆です。今年度に入り、隣接土地・所有者の同意を得ることができ、予定通り土地を購入ができるものと考えています。</p> <p>また、郷土館旧平賀邸におきましては、建物全体調査結果を元に、6月から屋根・窓・内装等の修繕工事を実施しています。工事も進み、11月1日より一般公開ができる予定です。さらに郷土館に隣接する土地を新たに取得し、駐車場や催し物会場として利用するため、整備に向けて設計作業を進めています。</p> <p>以上、私からの報告でした。続きまして、各委員から提案・報告をさせていただきます。</p> <p>平成30年度に幼稚園から始まる指導要領の見直しに関する話からさせていただきます。この資料は平成29年8月に兵庫県教育委員会連合会で文科省の参事官を招いて講演していただいた内容のものです。</p> <p>まず、学校と地域の連結・協働についてです。これまでににおいても平成12年になり、すぐに学校評議制度ができて、学校評議員の方に参画はしてもらっていますが、それをもう1歩、2歩と進めることがこれから求められています。</p> <p>学校の使命については、社会が学校を作るというイメージで進めています。</p> <p>社会に開かれた教育課程の実現が平成30年度からの改定の企画ベースとなっています。これは学校だけで考えていくものではなく、地域と協働で実施していくものです。</p> <p>社会に開かれた教育課程には定義が3つありますが、教育課程の実施に当たっては地域の人物・物的資源を活用していくことが重要です。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正が平成29年3月31日に改正され、4月から実施されています。その中で、学校運営協議会の設置については、これまで任意設置であり、指定を受けた特定の学校に限られるという縛りがありましたが、努力義務化され、要件が緩和されるなど非常に設置しやすくなりました。主なものとしては校長のリーダーシップの発揮や、複数校での設置などが上げられます。</p> <p>現状としては、兵庫県での設置率は2%ほどであり、山口県は100%です。設置が加速している自治体としては、熊本県、和歌山県及び神奈川県などが上げられ、</p>

発言者	発言内容等
磯部委員	<p>これからも設置が進んでほしいと思いますし、協力をしていきたいと思います。</p> <p>話をまとめますと地域との協働、資源の活用が協議会を設置していくうえで重要なことであり、その人的資源がないと話は成り立たず、新しくできた制度も机上の空論となってしまいます。そのあたりは現場の人間だけでは難しいことなので、市長部局におかれましても、人的資源の面で協力していただきたいと思います。</p> <p>天然記念物においても市長部局の合意が必要だと思えます。これまでも教育長と市長、副市長でお話はされていたかと思いますが、教育委員と市長部局の担当課との協議会の設置を来年度に要望したいと考えています。</p> <p>中学校給食においても、食育をベースに考えている我々の理念を汲んで運営していただくためにも、実際に協議会の設置のために動いていただく市長部局の担当課との協議会の設置を来年度に要望したいと思っています。</p> <p>それでは、私からは先程、教育長から説明がありましたが、平成32年度、33年度から本格実施します、新学習指導要領を見据えた学校教育の視点から5つの課題についてお話をいたします。</p> <p>1点目は「空調設備の効果的な活用」について話をいたします。</p> <p>全市立学校におきましては、市長はじめ市長部局の皆様のご尽力によりまして、今年度2学期から空調が稼働しております。改めて、感謝申し上げます。</p> <p>学校現場では、夏の暑い時期においても快適な環境で学習に取り組むことができるようになったため、子どもたちの学習に対する意欲や集中力が高まり、授業が効率よくできるようになったなど、感謝の思いと教育活動への意欲的な言動が見受けられます。</p> <p>夏の日差しが厳しい運動会においては、昼食時に子どもたちを教室に移動させ、空調の効いた教室でクールダウン、体に熱がこもらないように、熱中症対策にも活用した学校がございました。</p> <p>さらには、空調設備の効果的な活用として、来年度からの全市立学校での夏季休業期間の短縮実施に向けて検討を行います。年間の授業日数を増やすことで、教育課程の編成を余裕あるものとし、新学習指導要領に対応した、より一層豊かな学びある教育活動を推進していきたいと考えています。</p> <p>2点目は「小学校教育における外国語活動の推進」について話をいたします。</p> <p>市長もご承知の通り、小学校における外国語活動には現在、業者に委託し派遣される外国語指導助手ALTと、地域の皆様の中から英語に長けた人材が外国語指導支援員として、活動を支えていただいております。</p> <p>前回、お話したときには、この事業の効果について、子どもたちの声をお届けしましたが、今回は授業を担当している教員の声をお届けしたいと思います。</p> <p>ALTに関しては、「子どもたちがALTとの関わりを通じて、英語を話すことや、外国人と接すること、さらには、外国への憧れを抱いている。」とのこと。また、教員にとって地域の皆様が外国語指導支援員として授業をサポートして下さることについては、「英語指導の専門家だからこそ、適切な提案をしていただけたら、ネイティブと変わらない美しい発音で、子どもたちの発音を上手に指導して下さる。さらには、子どもたちに外国語の楽しさを伝えたいという思いが伝わり、それが子どもたちの心にも響いている。」など、取り組みの効果は、確かなものです。</p> <p>中学校の英語の教科では、英語を専門に学んだ教員が授業をしますが、小学校はそうではありません。しかも、英語を学ぶ上で一番大切な「英語が好きだ」と思える</p>

発言者	発言内容等
	<p>気持ちや、「英語を話せるようになりたい」という気持ちに火をつけるのは、小学校の時期であると考えます。</p> <p>資料①をご覧ください。こちらは外国語指導支援員を配置する前と配置した後の年度のアンケートの結果ですが、その効果は一目瞭然かと思えます。</p> <p>来年度からは、新学習指導要領の移行措置として、小学校3年生と4年生において外国語活動の授業が始まります。また、5年生と6年生においては、新学習指導要領での英語の教科を見据えた授業が開始されます。</p> <p>川西市におきましては、新学習指導要領の本格実施に向けて、ALT もしくは外国語指導支援員を段階的に拡充配置していきたいと考えています。</p> <p>3点目は「タブレット端末を活用した教育の推進」について話をいたします。</p> <p>新学習指導要領が目指すこととして「主体的で対話的な深い学びの実現」が謳われています。この主体的で対話的な深い学びを実現させるツールの1つが、タブレット端末です。どのような学びが可能なのかという点につきましては、平成28年度の第1回総合教育会議の場でもお話いたしました。淡路市教育委員会が兵庫県の指定を受けて、平成26年から取り組んだタブレット端末を活用した学び「フロンティアプロジェクト」の研究成果が示す通りです。</p> <p>また、平成25年6月に閣議決定された日本再興戦略や、第2期教育振興基本計画には、2010年代中に、一人に一台の情報端末による教育の展開や、ICTを活用した双方向的な学びの推進が示されていますが、平成30年度は、まずは、小・中・特別支援学校でパイロット校を指定、タブレット端末を導入し、その有効性について検証を深めていきたいと考えています。</p> <p>併せて、子どもたちには、情報社会の利便性だけでなく、危険性についても十分理解させ、避けては通れないネット社会を、賢く生き抜くための能力を培う指導を充実させていきます。</p> <p>4点目は「学校司書の配置による読書環境のさらなる充実」について話をいたします。こちらは、3点目のタブレット端末を活用した授業がデジタルとすれば、アナログとされる分野ですが、3点目と同様に、新学習指導要領が目指す「主体的で対話的な深い学びの実現」を担う、大変重要な取り組みです。</p> <p>資料 をご覧ください。</p> <p>近年、川西市では、学校図書館担当の教員のみならず、学校司書や図書ボランティアの配置により、子どもたちの読書習慣が身につく「読書が好きだ」と答える児童や生徒が増えてきていることは、全国学力・学習状況調査の結果でも明らかです。</p> <p>読書環境が充実してきたことにより、読書習慣が身につく国語力の向上につながり、ひいては、すべての教科の理解力の向上につながると確信しております。</p> <p>しかしながら、全国学力・学習状況調査の「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に週1回以上行くか」という質問項目については、平成29年度の調査では、小学校で0.8ポイント下降しています。また、中学校では2.7ポイント上昇していますが、全国に比べるとポイントがまだまだ低いことがわかるかと思えます。</p> <p>一言で言うと、学校でもっと読書をしたくなるような環境を整えたい。そして、より魅力的になった学校図書館を活用して、グループ別の調べ学習などを行い、課題の発見や解決に向けて、仲間とともに話し合い、必要な資料や情報を入手する、つまりは、主体的で対話的な深い学びを実現したいという思いがございます。</p> <p>そのためには、学校司書が教職員や児童、生徒に図書資料の提供を行ったり、</p>

発言者	発言内容等
服部委員	<p>調べ学習の際にアドバイスを رفتたりするなど、各教科で学校司書が本を通して授業づくりに関わっていくことが鍵になると考えております。</p> <p>最後、5点目は「スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置」について話をいたします。</p> <p>SSW 設置後の成果はお耳に入っていることと思いますが、今や SSW は、児童や生徒の問題行動の背景にある複雑化する課題を解決するための「チーム学校」の要であることは間違いありません。</p> <p>SSW が配置されて2年目ではありますが、教職員の専門性だけでは対応に苦労する状況を、福祉の専門家である SSW が中心となって、必要な関係機関と迅速な連携を図り、協働体制を整える構図が定着してまいりました。学校からの SSW への相談件数が増加しているのは、SSW の働きへの信頼の証であると考えております。</p> <p>そこで、今年度までは1名のスクールソーシャルワーカーで3中学校区を担当していただいておりますが、来年度は2名に増員して、一気に全中学校区にスクールソーシャルワーカーを配置したいと考えております。</p> <p>以上、私からは、新学習指導要領を見据えた学校教育の視点から5つの課題について、お話をいたしました。よろしくお願いいたします。</p> <p>3点お話をさせていただきます。</p> <p>1点目ですが、体験学習の体系化です。川西市は小学3年生の環境体験で地元の自然、小学4年生の里山体験で黒川の自然、小学5年生の自然学校で県内の他地域の自然と体系化が進んでいます。</p> <p>5年生の自然学校の校長として、南但馬に行っておりますが、そこで他の学校を見ていると、3年生と5年生の体験学習が体系化されておらずバラバラの状態だと感じます。4年生の学習はほかの学校にはありません。</p> <p>川西の体験学習がよく進んでいるということは、感じているところではありますが、財政上の問題などで、4年生の体験学習の実施が難しくなっているという問題があることも聞いています。この問題は教育委員会だけでは解決できるものではないので、是非市長にお願いしたいと思います。</p> <p>2点目は、天然記念物指定の問題です。天然記念物指定は教育委員会で独自に決めることができるのですが、所有者からの申請がなければ動くことができません。</p> <p>今、候補に挙がっています清和台東は所有が川西市であり、管理は公園緑地課ですので、そこから資料等を提出いただかないと話が進みませんので、是非とも公園緑地課に資料提出の依頼をお願いしたいと思います。</p> <p>ちまきにつきましては、今年度中に無形文化財としたいと思っています。市長もちまきを作った経験があると聞きましたので、是非応援していただきたいと思っています。</p> <p>天然記念物指定が重要な理由は、天然記念物指定されることによって、水明台をみてもわかるように非常に活性化します。また、地域との連携ができ、その結果、小学3年生の環境体験学習を地元の方々がすべて受けてくださっており、水明台の桜を学ぶ機会ができています。このように地域の人的支援の活用という面では川西市は非常に進んでいます。天然記念物指定は、ただ単に貴重だから指定するのではなく、結果として川西市の活性化にもつながりますので、是非ご支援いただきたいと思っています。</p>

発言者	発言内容等
鈴木委員	<p>3点目は、川西学の確立です。</p> <p>教育委員会にはレフネックスもありますので、その中で川西学という講義をすることは教育委員会の立場として重要であると考えています。</p> <p>川西市においては、清和源氏だけではなく日本一の里山や鉾山跡、万願寺など色々な重要なものがありますので、それらをしっかり市民に伝えていき川西市をアピールするということは大事なことだと思います。</p> <p>議員からも川西市は紀要を出さないのかと質問が出ていました。宝塚市は文化財等の発掘。あるいは、重要な自然について毎年1回、冊子が出ています。すでに28号ですから、28年間にわたり出し続けていることになりましたが、川西市は一度も出ていません。こういったものを出すことも川西市のあるべき姿だと思います。</p> <p>以上3点です。よろしくお願いします。</p> <p>先ほどの加藤議員の話に重ねて、地域と関わる学びの共同についてお話させていただきます。</p> <p>平成20年度から学校支援地域本部事業で地域住民が学校の教育活動に関わる方法を模索してきました。地域による学校の支援から、地域と学校の双方向からの連携、協働に発展させ、学校を核とした地域づくりを推進し、地域の創生につなげようというものです。学校には協力者ともいうべき方が必ずいらっしゃいます。その方々に地域のコーディネーターとして活躍していただきたいと思っています。教育委員会に留まらず市としての応援をお願いいたします。</p> <p>2つ目に、先ほどの磯部委員の話に重ねて学校司書についてお話させていただきます。学校司書は平成25年度から配置されまして、週1回6時間、年間35回という少ない勤務日数ですが、それでも学校図書館は活性化しています。</p> <p>全小中学校の学校司書がその役割を十分に発揮したいと非常に意欲的です。例えば、授業と連動して資料をそろえて、より深い学びに貢献したいと望んでいます。しかし、その準備をするためには活動日数が不足しています。文科省の地方財政措置、学校図書整備等5か年計画で図書の更新はされますが、学校司書の配置費は増加しません。</p> <p>3つ目は、就学前教育保育と小学校教育の円滑な接続について申し上げます。新学習指導要領では初等、中等教育の一貫した学びの充実が謳われています。保育所、幼稚園、小学校の接続カリキュラムの策定は急務です。川西市は近隣の市町では一番遅れていると聞いています。</p> <p>接続カリキュラムでは、幼児期に学んだ力を活かしながら小学校での学びのスタイルに慣れていく時期として、接続期を設定します。この接続期に保育所、幼稚園で取り組むカリキュラムをアプローチカリキュラム、小学校入学から夏休み前までに主に、学校の生活科で取り組むカリキュラムをスタートカリキュラムと言います。子どもの発達をこのように捉えると、小学校は決してゼロからのスタートではなく、小学校1年生は幼児期から数えれば4年生ということになります。就学前の幼児の様子を小学校が十分に聞き取る機会を持っていただき、子どもの発達を肯定的に捉えて、子ども一人一人が成長を認められ、安心して小学校生活を送れるよう、就学前教育と小学校が連携して、接続期カリキュラムを策定します。</p> <p>保育所、認定こども園、幼稚園、さらに公立と民間など様々な就学前教育がありますが、目指すところは同じで子どもが自力で生きていける思考力の発達を助けたい</p>

発言者	発言内容等
大塩市長	<p>ということです。</p> <p>新学習指導要領で唱えられるアクティブラーニングの手法は、従前より公立幼稚園が行ってきた教育そのものです。公立幼稚園には、その行ってきた教育、研修を守り質の高い就学前教育を牽引していく自負と責務があり、接続期カリキュラム策定の原動力になると思います。</p> <p>このようにして川西市は教育においても魅力があり、信頼の置くことができる市であるということを大いに訴えたいと思います。そして、若い世帯に選ばれる町となれたいと思っています。</p> <p>ありがとうございました。私の方からもコメントをさせていただきます。</p> <p>教育長から「平成29年度の主な取り組みについて」ということで、現状の報告をいただきました。</p> <p>社会に開かれた教育課程の実現に向けて進んでいただいているということで、私は考え方に間違いはないと思います。これをどのようにかみ砕き、実行していくのが大事だと思うので、そこをしっかりとやってもらいたいと思います。</p> <p>学校教育の配置適正化についてはいろいろな反省点があると思います。提案をする以上はこういう事態にならないように、しっかり取り組むべきであったと思います。</p> <p>中学校給食については、ようやく少し、動き出したのかという印象を受けていますが、どこかがリーダーシップをもって取り組まないと前に進まないの、よろしく願っています。</p> <p>認定こども園は、公立も来年度に向けて随時、計画が出来上がってきているので、しっかりとやっていただきたいと思います。</p> <p>社会教育の方では、郷土館に隣接する土地を確保できているので、駐車場や催し物会場など、どのように活用していくのか、もう少しスピードアップして取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>学校の空調設置もうまくいったようで良かったです。環境も整ったので、授業時間数を増やすことだけがすべてではないが、全市立学校での夏季休業期間の短縮を取り入れることができればと思います。</p> <p>それぞれの提案について、まさにその通りだと思います。市長部局としては、費用対効果など、しっかり声を聞いて進めていきたいと思っていますので、教育委員会は委員と事務局が、何をどうしていくのかをしっかりと議論をしていただきたいと思います。</p> <p>予算などを考えるとすべてを平成30年度に取り組むということは難しいところがあります。どれだけのことができるかはわかりませんが、前向きに捉えていきたいと思っていますので、これからも提案をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、短時間でしたがご苦労様でした。今後ともよろしく願います。</p>

以下会議の事項を記録し、相違ないことを認めたので、ここに署名いたします。

平成 29 年 11 月 27 日

川 西 市 長 大 塩 民 生

川西市教育長 牛 尾 巧